

美空ひばり抜きでは戦後の芸能史は語れない。戦後五十年の今年、歌謡界の女王「美空ひばり」の七回忌を六月二十四日を迎え、命日を振り返り、故の栄光と孤独が浮き彫りにされ、私もひばりさんが亡くなる前後、よく取材させていただいたことを思い出した。

相次ぐ弟たちの不祥事を死と、その孤独感が深まる中で、晩年は悲しいことの連続だった。横浜の魚屋さん一家から天才歌手が生まれたことになったという。

を挟んで各テレビ局で特番が組まれ、在りし

## 輝く名声の陰に寂しい私生活

歌姫としての至福を得たひばりさんに普通の幸せはない

日の姿とヒット局が流れた。その歌声はまさに変幻自在、小さいに、華やかに、力強く、情感豊かに歌い上げ、私はもちろん多くのファンもあらためて魅了されたようだ。

天才歌手として希有な才能と実力は、だれもが認めるどころだが、光り輝くスターという名声の陰にはいつも寂しい私生活があった。

命日に放送された日本テレビの「独占!美空ひばりが泣いた夜」と題したドキュメントを見たが、病床でひばりさんが書いた直筆の手記や長男和也氏の秘話など、大スター

一卵性親子といわれた母親とのきずながあまりに強いためか、小林旭氏との結婚も、いくつもの恋も、すぐに別れがやってきた。暴力団との交際などで世間の非難を浴び

## 放談 言いたい

井波由起子



とによって、良くも悪くもその家族は大きな影響を受けた。が、妹の勢津子さんだけは普通のサラリーマンと結婚し、太陽のような姉の陰でひっそりと暮らしていたが、二年前にひばりさんと声質が似ている勢津子さんは歌手デビューを果たした。

実は、ひばりさんには異母妹が一人いた。この方は、平凡だが幸せな家

は最終回となりました。一年間の感謝とともにまたの機会を楽しみにしております。(リポーター)